

特別講演 1

「糖尿病治療薬の最前線」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授
西尾 善彦 先生

熊本研究、UKPDS によって 2 型糖尿病患者において HbA1c 低下による細小血管合併症の発症、進展抑制が証明され、HbA1c 低下を目標にした糖尿病治療が確立した。しかしながら、これまでの大規模かつ厳格な血糖コントロールをめざした研究においても HbA1c 低下による大血管合併症の抑制効果を明らかにできていない。その背景として、HbA1c 低下治療に伴い低血糖の頻度が増加することや肥満が助長されることがある。一方、食後血糖の上昇や日内血糖変動の大きさなどの HbA1c に反映されない血糖コントロール問題も注目されるようになっている。このように、現在の糖尿病治療では、1) マルチリスクの管理、2) 長期的な HbA1c の管理、3) 低血糖を避ける、4) 肥満を是正する、5) 血糖変動を抑制するといった課題の克服が合併症予防に重要と考えられている。現時点での治療薬、将来期待される治療薬によってこれらの課題がどの程度達成されるのかを考えてみたい。